

平成23年度中間決算  
— 説明用資料 —

平成23年11月24日(木)

# 1. 契約の状況

## (1) 新契約年換算保険料

(単位:億円、%)

区 分	平成22年度 中間期	平成23年度 中間期	前年同期比増減率
個人保険	143	123	▲ 14.3
うち総合保障型商品	42	44	+ 4.5
うち一時払終身保険	26	19	▲ 26.5
個人年金保険	9	13	+ 43.2
合 計	153	136	▲ 10.8
うち医療保障・生前給付保障等	72	54	▲ 24.6

- (注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です（一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額）。
2. 医療保障・生前給付保障等については、医療保障給付（入院給付、手術給付等）、生前給付保障給付（特定疾病給付、介護給付等）、保険料払込免除給付（障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患、介護等を事由とするものを含む）等に該当する部分の年換算保険料を計上しています。
3. 年換算保険料には、転換による純増加を含んでいます。

## (2) 解約・失効年換算保険料、解約・失効率〔個人保険＋個人年金保険〕

(単位:億円、%)

区 分	平成22年度 中間期	平成23年度 中間期	前年同期比増減率
解約・失効年換算保険料	150	132	▲ 11.9
解約・失効率	2.77	2.56	0.22ポイント改善

- (注) 解約・失効の数値は失効後復活契約を失効と相殺せずに算出しています。

## (3) 保有契約年換算保険料

(単位:億円、%)

区 分	平成22年度末	平成23年度 中間期末	前年度末比増減率
個人保険	4,128	4,047	▲ 2.0
個人年金保険	1,385	1,378	▲ 0.5
合 計	5,514	5,426	▲ 1.6
うち医療保障・生前給付保障等	1,232	1,235	+ 0.2

- (注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です（一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額）。
2. 医療保障・生前給付保障等については、医療保障給付（入院給付、手術給付等）、生前給付保障給付（特定疾病給付、介護給付等）、保険料払込免除給付（障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患、介護等を事由とするものを含む）等に該当する部分の年換算保険料を計上しています。

### 【新契約年換算保険料】

○主力の総合保障型商品は前年同期より増加したが、一時払終身保険の減少や営業職員減少もあり、個人保険・個人年金保険合計の新契約年換算保険料は、前年同期比10.8%減の136億円となった。

### 【解約・失効年換算保険料、解約・失効率】

○解約・失効年換算保険料は、前年同期比11.9%減の132億円、解約・失効率は前年同期から0.22ポイント改善の2.56%と、改善傾向が継続している。

### 【保有契約年換算保険料】

○個人保険と個人年金保険合計の保有契約年換算保険料は、解約・失効・満期等による減少を新契約でカバーしきれず、前年度末比1.6%減の5,426億円となったが、減少のペースは、着実に鈍化している。

## 2. 主要収支の状況

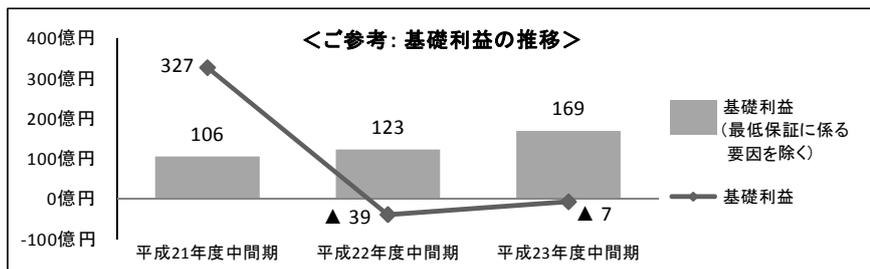
(単位:億円、%)

区 分	平成22年度 中間期	平成23年度 中間期	前年同相比	
			増減率	増減額
基礎収益	4,316	4,403	+ 2.0	+ 87
うち保険料等収入	3,226	2,910	▲ 9.8	▲ 315
うち個人保険分野の一時払	583	428	▲ 26.5	▲ 154
うち個人保険分野の平準払(注)1	1,861	1,777	▲ 4.5	▲ 83
うち利息及び配当金等収入	646	638	▲ 1.2	▲ 7
うち責任準備金戻入額	273	676	+ 147.1	+ 402
基礎費用	4,356	4,411	+ 1.3	+ 55
うち保険金等支払金	3,326	3,363	+ 1.1	+ 37
うち事業費	553	514	▲ 7.0	▲ 38
基礎利益 ①	▲ 39	▲ 7	▲ 80.1	+ 31
逆ざや額	▲ 296	▲ 285	▲ 3.9	+ 11
危険差益	254	275	+ 8.2	+ 20
うち最低保証に係る要因(注)2 ②	▲ 163	▲ 177	+ 8.8	▲ 14
費差損益	2	2	▲ 15.1	▲ 0
キャピタル損益 ③	228	203	▲ 11.0	▲ 25
臨時損益 ④	18	▲ 20	—	▲ 39
経常利益 ①+③+④	206	174	▲ 15.6	▲ 32

基礎利益(最低保証に係る要因を除く) ①-②	123	169	+ 37.4	+ 46
------------------------	-----	-----	--------	------

特別利益	27	4	▲ 84.2	▲ 23
特別損失	23	10	▲ 53.8	▲ 12
契約者配当準備金繰入額	76	74	▲ 3.2	▲ 2
税引前中間純利益	135	94	▲ 30.3	▲ 40
法人税等	13	5	▲ 58.9	▲ 8
中間純利益	121	88	▲ 27.0	▲ 32

- (注) 1. 平準払については、当年度分のみ表示しています(次年度以降の前納分は除いています)。  
 2. 「最低保証に係る要因」は、変額年金保険等における次の金額の合計額です。  
 ・最低保証に係る一般勘定の責任準備金の繰入・戻入額  
 (平成22年度中間期: ▲139億円、平成23年度中間期: ▲194億円)  
 最低保証に係る一般勘定の責任準備金とは、変額年金保険等の最低保証リスクに備えて積み立てている準備金です。最低保証に係る一般勘定の責任準備金を繰り入れた場合は基礎利益を減少させる要因に、また、最低保証に係る一般勘定の責任準備金を戻し入れた場合は基礎利益を増加させる要因になります。  
 ・最低保証に係る保険料収入から、年金開始等に際して最低保証のためにてん補した額を控除した額  
 (平成22年度中間期: ▲23億円、平成23年度中間期: 16億円)



## 3. 資産・負債等の状況

(単位:億円、%)

科 目	平成22年度末	平成23年度 中間期末	前年度末比	
			増減率	増減額
資産の部合計	72,234	71,445	▲ 1.1	▲ 788
負債の部合計	70,084	69,307	▲ 1.1	▲ 777
純資産の部合計	2,149	2,138	▲ 0.5	▲ 11

### 【保険料等収入】

○一時払保険料が、一時払終身保険の販売減少等により前年同期から154億円減となったことを主因として、前年同期比9.8%減、金額としては315億円減の2,910億円となった。なお、平準払(当年度分)については、保有契約の減少に伴い83億円減となっている。

### 【利息及び配当金等収入】

○有価証券からの配当は安定的に推移したものの、貸付金利息は残高減少に伴って減少したため、前年同期比1.2%減、金額としては7億円減の638億円となった。

### 【責任準備金戻入額】

○団体年金保険のシェア変更を主因として、前年同期比147.1%増、金額としては402億円増の676億円となった。

### 【保険金等支払金】

○団体年金保険のシェア変更を主因として、その他返戻金が増加したことにより、前年同期比1.1%増、金額としては37億円増の3,363億円となった。

### 【事業費】

○物件費の圧縮等に努めた結果、前年同期比7.0%減、金額としては514億円減となった。

### 【基礎利益】

○基礎利益は、前年同期から31億円改善したものの、金額としてはマイナス7億円となった。  
 ○逆ざや額は、前年同期より11億円改善の285億円となった。  
 ○危険差益は、変額年金保険等の最低保証に係る責任準備金の繰り入れ負担等が増加した半面、新契約商品構成の変化に伴い、新契約の収益性が向上したこともあり、前年同期から20億円増の275億円となった。  
 ○費差益は、事業費の減少等により、ほぼ前年同期並みの2億円となった。  
 ○いずれの指標も改善・増加しているが、最低保証に係る要因▲177億円が大きく、基礎利益全体としてはマイナスとなった。  
 ○なお、最低保証要因を除いた基礎利益は、前年同期から46億円増の169億円となった。

### 【経常利益、中間純利益】

○当社では、基礎利益における最低保証責任準備金の変動に対してデリバティブを用いてヘッジしており、ヘッジ益をキャピタル損益として計上した結果、経常利益は174億円となり、中間純利益も88億円を計上した。

### 【総資産】

○ほぼ前年度末並み(前年度末比1.1%減)の7兆1,445億円となった。

## 4. 一般勘定資産の構成、有価証券および不動産の含み損益

### (1) 資産の構成(一般勘定)

区 分	平成22年度末		平成23年度中間期末		平成23年度 中間期 資産の増減
	金額	占率	金額	占率	
現預金・コールローン	3,426	5.2	3,855	5.9	+ 429
債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—	—
買入金銭債権	306	0.5	300	0.5	▲ 6
金銭の信託	2	0.0	2	0.0	—
有価証券	40,152	61.3	39,459	60.4	▲ 692
公社債	27,413	41.9	28,334	43.4	+ 920
株式	3,489	5.3	2,436	3.7	▲ 1,052
外国証券	9,051	13.8	8,500	13.0	▲ 551
公社債	6,194	9.4	5,695	8.7	▲ 499
株式等	2,857	4.4	2,804	4.3	▲ 52
その他の証券	197	0.3	188	0.3	▲ 9
貸付金	17,533	26.7	17,170	26.3	▲ 362
不動産	2,759	4.2	2,737	4.2	▲ 21
繰延税金資産	378	0.6	430	0.6	+ 51
その他	964	1.5	1,376	2.1	+ 412
貸倒引当金	▲ 20	▲ 0.0	▲ 9	▲ 0.0	+ 11
合計	65,502	100.0	65,323	100.0	▲ 178

(単位:億円、%)

#### 【一般勘定資産の運用状況】

- ALMの推進と安定的な収益確保を目的に、責任準備金対応債券を中心とした超長期の国内公社債を積み増した。
- 一方、リスク抑制の観点から国内株式を、一部削減するとともに、外国公社債についても、その一部を削減した。
- 貸付金については、企業の資金需要の低迷が続いており、残高が減少した。

- (注) 1. 上記資産には、現金担保付債券貸借取引に伴う受入担保金を含みます。同担保金は「債券貸借取引受入担保金」として負債計上しています。  
(平成22年度末: 1,606億円、平成23年度中間期末: 1,574億円)
2. 現金担保付債券貸借取引に伴う受入担保金の増減額は以下のとおりです。  
(平成22年度: ▲693億円、平成23年度中間期: ▲31億円)

### (2) 有価証券の含み損益

[有価証券の時価情報(一般勘定)]

区 分	平成22年度末	平成23年度中間期末			平成23年度 中間期 差損益の増減
	差損益	損益計算書計上 後価額(B)	時価 (A)	差損益 (A)-(B)	
満期保有目的の債券	+ 19	724	743	+ 18	▲ 0
責任準備金対応債券	+ 365	12,869	13,777	+ 907	+ 542
子会社・関連会社株式	—	—	—	—	—
その他有価証券	+ 256	24,542	24,648	+ 106	▲ 149
公社債	+ 355	14,628	15,174	+ 545	+ 190
株式	+ 247	2,336	2,207	▲ 129	▲ 376
外国証券	▲ 340	6,708	6,417	▲ 291	+ 48
その他の証券	▲ 10	173	144	▲ 28	▲ 17
買入金銭債権	+ 4	235	245	+ 10	+ 5
譲渡性預金	—	460	460	—	—
合計 …①	+ 640	38,137	39,169	+ 1,032	+ 392
上表以外の有価証券(注)3…②	▲ 20	—	—	▲ 26	▲ 6
合計(①+②)	+ 619	—	—	+ 1,005	+ 386

(単位:億円)

#### 【有価証券の含み損益】

- 国内株式市況の下落や円高により、国内株式および外国証券の一部の含み損益が悪化した。
- 一方、国内金利の低下等により国内公社債の含み益が増加したことに伴い、有価証券全体の含み益は、前年度末の619億円から386億円増加して、1,005億円となった。

- (注) 1. 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。
2. 外貨建その他有価証券の為替換算差額の一部等については損益計算書に計上しています。上表では、決算処理後の差損益を適切に開示するため、同為替換算差額等(平成22年度末: ▲502億円、平成23年度中間期末: ▲778億円)を損益計算書に計上した後のベースでの差損益について記載しています。
3. 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券のうち含み損益として以下のものが計上されています。
- ・投資事業組合が保有する「その他有価証券」の評価差額の持分相当額(平成22年度末: 該当なし、平成23年度中間期末: ▲0億円)
  - ・外貨建の非上場外国株式等の為替換算差額(平成22年度末: ▲20億円、平成23年度中間期末: ▲26億円)

### (3) 不動産の含み損益

(単位:億円、%)

区 分	平成22年度末	平成23年度 中間期末	
		前年度末比 増減率	前年度末比 増減額
時価	1,474	1,456	▲ 1.2
貸借対照表価額	1,928	1,926	▲ 0.1
差損益	▲ 454	▲ 470	+ 3.5

- (注) 上記は、土地および借地権を対象としています。なお、再評価は実施していません。

#### 【不動産の含み損益】

- 不動産の含み損については、保有物件の地価下落等により、前年度末から15億円悪化し、470億円となった。

## 5. ソルベンシー・マージン比率、実質純資産額

### (1) ソルベンシー・マージン比率

(単位:億円)

項目	平成22年度末	平成23年度	
		中間期末	前年度末比 増減額
ソルベンシー・マージン総額 (A)	5,068	4,980	▲ 88
資本金等	1,996	2,082	+ 85
価格変動準備金	63	72	+ 9
危険準備金	374	393	+ 19
一般貸倒引当金	1	1	▲ 0
その他有価証券の評価差額×90%(マイナスの場合100%)	211	71	▲ 140
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	▲ 454	▲ 470	▲ 15
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	1,232	1,210	▲ 22
負債性資本調達手段等	1,608	1,584	▲ 24
控除項目	▲ 50	▲ 50	—
その他	84	84	—
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1+R_8)^2+(R_2+R_3+R_7)^2}+R_4$ (B)	1,438	1,351	▲ 87
保険リスク相当額 $R_1$	256	249	▲ 6
第三分野保険の保険リスク相当額 $R_8$	93	91	▲ 1
予定利率リスク相当額 $R_2$	354	347	▲ 6
資産運用リスク相当額 $R_3$	745	671	▲ 74
経営管理リスク相当額 $R_4$	50	47	▲ 2
最低保証リスク相当額 $R_7$	242	238	▲ 3
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	704.8%	737.1%	+ 32.3 ポイント

(注) 1. 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

2. 「最低保証リスク相当額」は、標準的方式を用いて算出しています。

### <ご参考:新基準によるソルベンシー・マージン比率>

(単位:億円)

項目	平成22年度末	平成23年度	
		中間期末	前年度末比 増減額
ソルベンシー・マージン総額 (A)	5,010	4,923	▲ 86
資本金等	1,996	2,082	+ 85
価格変動準備金	63	72	+ 9
危険準備金	374	393	+ 19
一般貸倒引当金	1	1	▲ 0
その他有価証券の評価差額×90%(マイナスの場合100%)	211	71	▲ 140
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	▲ 454	▲ 470	▲ 15
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	1,251	1,230	▲ 21
負債性資本調達手段等	1,608	1,584	▲ 24
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性 資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	—	—
控除項目	▲ 50	▲ 50	—
その他	7	7	—
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1+R_8)^2+(R_2+R_3+R_7)^2}+R_4$ (B)	2,368	2,186	▲ 181
保険リスク相当額 $R_1$	256	249	▲ 6
第三分野保険の保険リスク相当額 $R_8$	93	91	▲ 1
予定利率リスク相当額 $R_2$	823	809	▲ 14
資産運用リスク相当額 $R_3$	1,188	1,035	▲ 152
経営管理リスク相当額 $R_4$	78	72	▲ 5
最低保証リスク相当額 $R_7$	251	241	▲ 9
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	423.0%	450.2%	+ 27.2 ポイント

(注) 1. 平成22年内閣府令第23号、平成22年金融庁告示第48号により、ソルベンシー・マージン総額及びリスクの合計額の算出基準について一部変更(マージン算入の厳格化、リスク計測の厳格化・精緻化等)がなされております。当該変更は平成23年度末から適用されます。上記は、当該変更を平成23年度中間期末に適用したと仮定した場合の数値です。

2. 「最低保証リスク相当額」は、標準的方式を用いて算出しています。

### (2) 実質純資産額

(単位:億円)

項目	平成22年度末	平成23年度	
		中間期末	前年度末比 増減額
実質純資産額	3,851	4,316	+ 464

#### 【ソルベンシー・マージン比率】

○資産運用リスクが減少したことを主因として、前年度末比32.3ポイント上昇の737.1%となった。

#### 【新基準によるソルベンシー・マージン比率】

○現行基準と同様の理由により、前年度末から27.2ポイント上昇の450.2%となった。

#### 【実質純資産額】

○有価証券全体の含み益が増加したことにより、前年度末から464億円増の4,316億円となった。

以 上